

平成 24 年（2012 年）の知床硫黄山の火山活動

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○2012 年の活動概況

・火口や噴気の状況（図 1 ～ 4）

6 月 26 日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、山頂部及び北西側中腹の爆裂火口では噴気は確認されませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、北西側中腹の爆裂火口で地熱域が認められましたが、これまで(前回：2011 年 10 月)と比較して、地熱域の拡大や温度上昇の傾向は見られませんでした。

また、カムイワッカ河口付近の海岸には、北西側中腹の爆裂火口から湧出した温泉水による変色域が確認されました。

- 1) 赤外熱映像による。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 1 知床硫黄山 周辺図と赤外熱映像¹⁾及び写真の撮影方向（矢印）

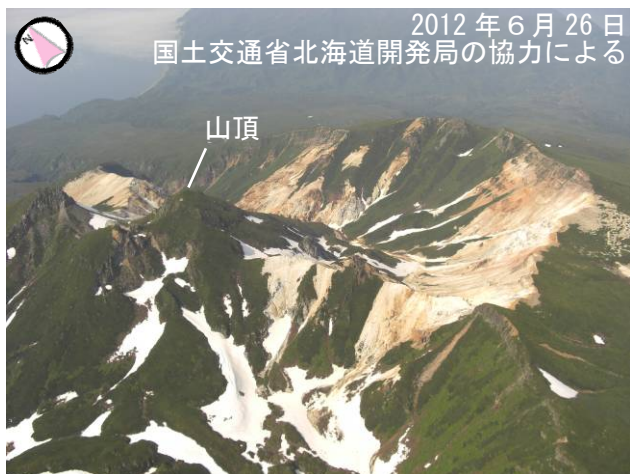


図 2 知床硫黄山 山頂周辺の状況
南西側上空（図 1-①矢印方向）から撮影



図 3 知床硫黄山 カムイワッカ川から流出した温泉による海水の変色状況（楕円内）
北西側上空（図 1-②矢印方向）から撮影

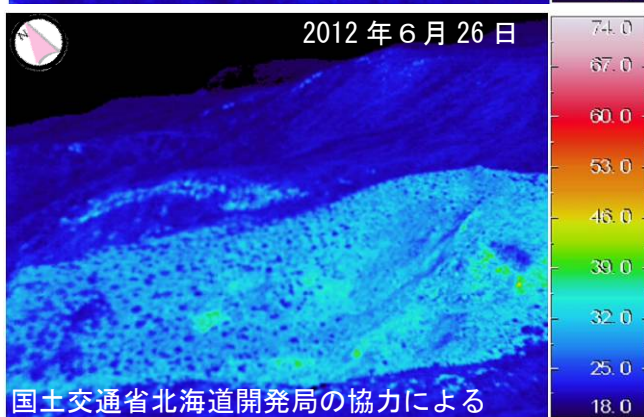
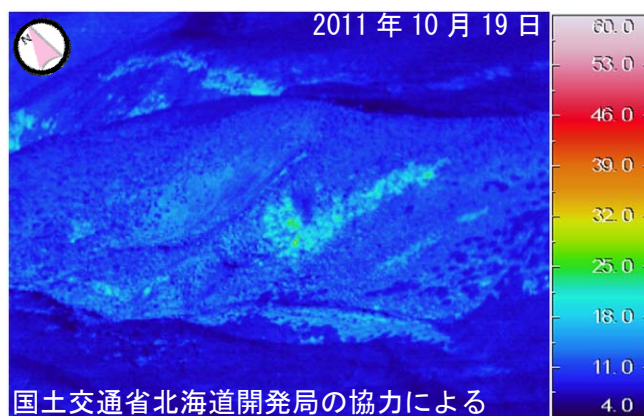


図 4 知床硫黄山 北西側中腹の爆裂火口の地表面温度分布¹⁾
南西側上空（図 1-③矢印方向）から撮影